

2025年3月期 第1四半期 決算補足資料

2024年8月2日



ダイワボウホールディングス株式会社

(証券コード : **3107**)

2025年3月期 第1四半期 (2024年4月1日～2024年6月30日)

グループ連結では前年同期比で減益も
国内IT需要の拡大を捉え1Q最高売上高を更新

ITインフラ 流通事業

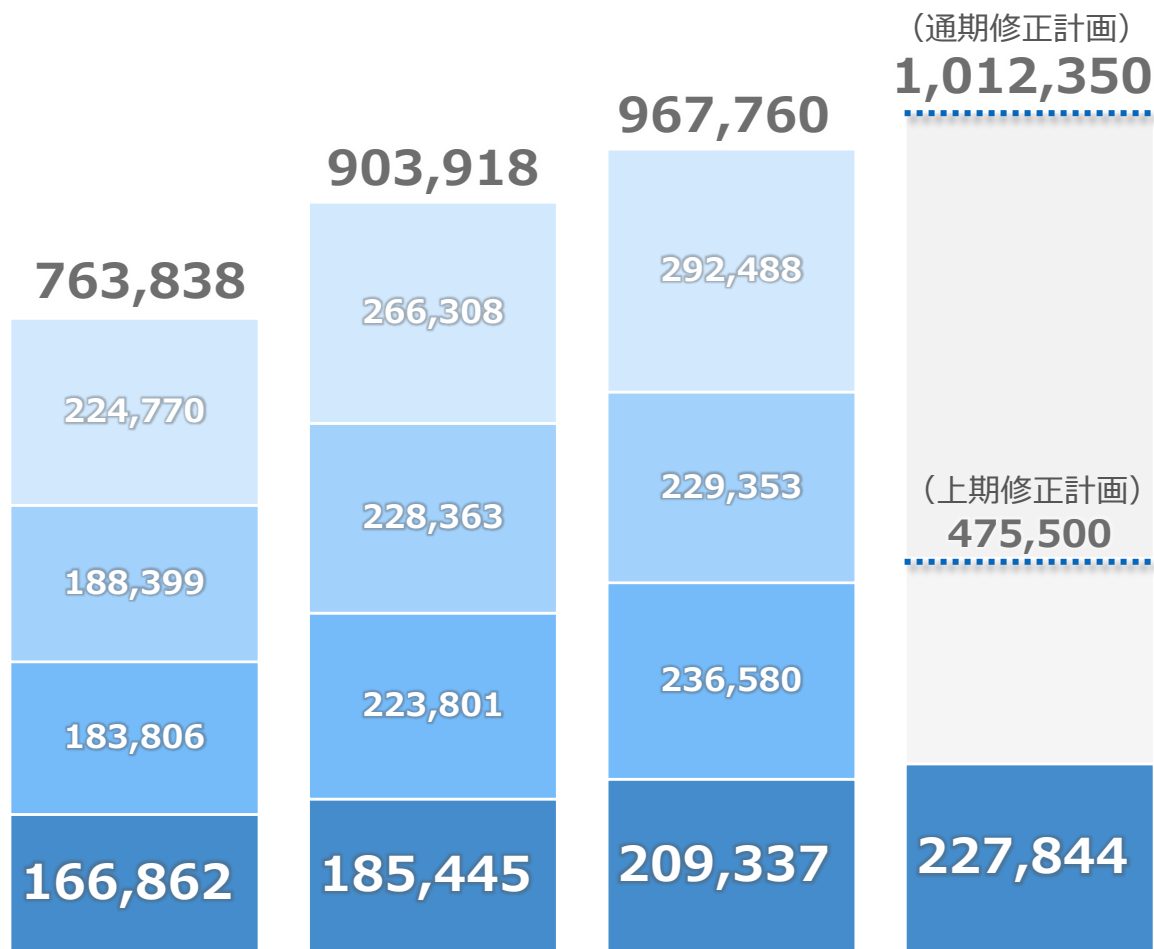
- iKAZUCHI(雷)のエンドユーザー契約件数等の伸長により、クラウドビジネスの実績拡大
- 企業向けでは、情報通信業、製造業を中心に需要が拡大
- 官公庁向けなど複数の大型案件獲得に伴い、一時的に利益率が低下
- PC販売台数は、Windows更新需要の本格化を前にして増加傾向

産業機械 事業

- 工作機械の本体出荷が2Q以降に集中する影響で、1Qは減収減益
- 受注面では工作機械・自動機械ともに前年同期比で順調に拡大

2025年3月期 1Q累計 売上高

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



売上高 **227,844**百万円

前年同期比 **+8.8%**

進捗率 上期 **47.9%** / 通期 **22.5%**

(百万円) 2022/3

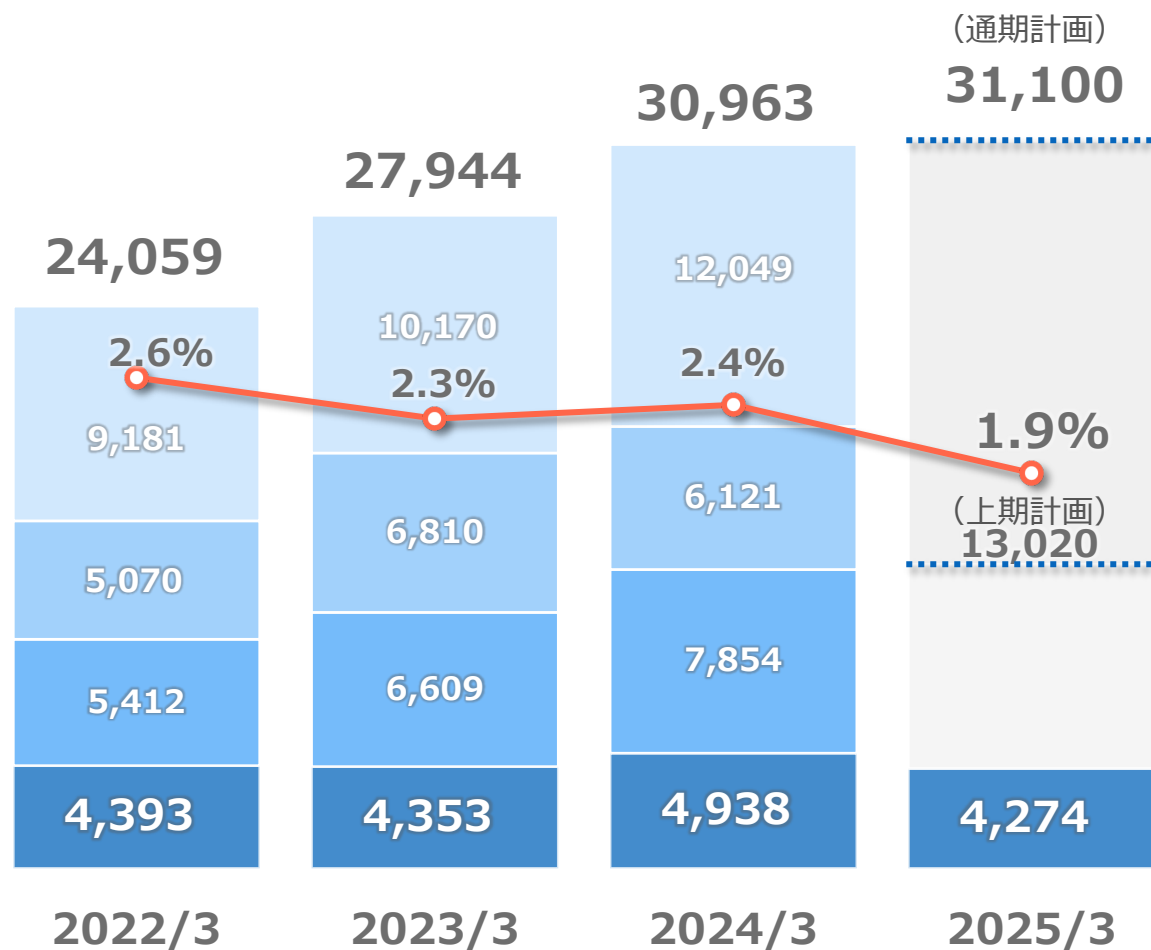
2023/3

2024/3

2025/3

2025年3月期 1Q累計 営業利益

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ○ 売上高営業利益率（1Q）



営業利益 **4,274**百万円

前年同期比 Δ **13.4%**

営業利益率 **1.9%**

進捗率 上期 **32.8%** / 通期 **13.7%**

(百万円)

2025年3月期 1Q累計 連結決算概況

(百万円)	2024/3 1Q	2025/3 1Q	増減	前期比	上期計画 (修正後)	進捗率
売上高	209,337	227,844	+18,506	+8.8%	475,500	47.9%
営業利益	4,938	4,274	△664	△13.4%	13,020	32.8%
経常利益	5,044	4,528	△516	△10.2%	13,220	34.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,442	3,079	△363	△10.6%	9,100	33.8%
1株当たり 四半期純利益 (円)	36.83	33.06				

(百万円)	2024/3	2024/6	増減	主な増減理由
総資産	405,256	375,585	△29,671	売上債権等の減少
純資産	142,133	140,445	△1,687	仕入債務等の減少
自己資本比率	35.0%	37.3%		

2025年3月期 1Q累計 セグメント別業績

(百万円)		2024/3 1Q	2025/3 1Q	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	192,592	226,058	+33,465	+17.4%
	産業機械	2,182	1,786	△396	△18.2%
	繊維	14,417	—	△14,417	—
	その他	144	—	△144	—
	合計	209,337	227,844	+18,506	+8.8%
営業利益	ITインフラ流通	4,538	4,358	△179	△4.0%
	産業機械	137	△87	△224	—
	繊維	224	—	△224	—
	その他	20	—	△20	—
	(調整額)	18	2	△15	△85.3%
	合計	4,938	4,274	△664	△13.4%

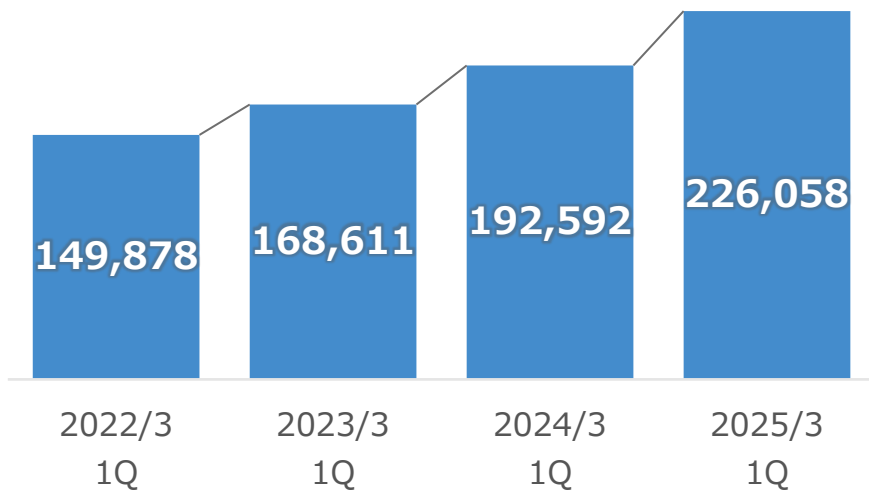
2025年3月期 第2四半期（累計）業績予想

(百万円)	2023/9 (①実績)		2024/9 (期初予想)		2024/9 (②修正予想)		前期増減 (②-①)	前期比
	金額	率	金額	率	金額	率		
売上高	445,917		450,500		475,500		+ 29,582	+ 6.6%
ITインフラ流通	409,237		444,500		469,500		+ 60,262	+ 14.7%
産業機械	6,680		6,000		6,000		△ 680	△ 10.2%
繊維	29,679		—		—			
営業利益	12,792	2.9%	13,020	2.9%	13,020	2.7%	+ 227	+ 1.8%
ITインフラ流通	11,593	2.8%	12,585	2.8%	12,705	2.7%	+ 1,111	+ 9.6%
産業機械	521	7.8%	435	7.3%	315	5.3%	△ 206	△ 39.5%
繊維	620	2.1%	—		—			
経常利益	12,933	2.9%	13,220	2.9%	13,220	2.8%	+ 286	+ 2.2%
親会社株主に帰属する 中間純利益	8,526	1.9%	9,100	2.0%	9,100	1.9%	+ 573	+ 6.7%

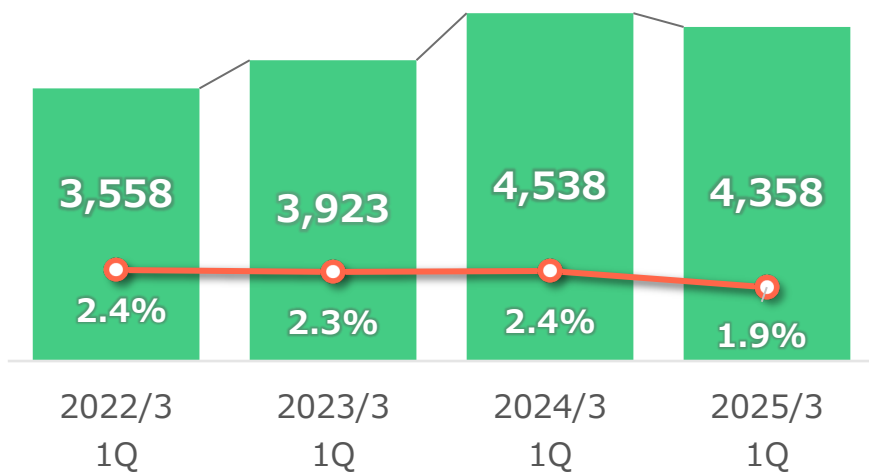
2025年3月期 通期業績予想

(百万円)	2024/3 (①実績)		2025/3 (期初予想)		2025/3 (②修正予想)		前期増減 (②-①)	前期比
	金額	率	金額	率	金額	率		
売上高	967,760		975,000		1,012,350		+44,589	+4.6%
ITインフラ流通	894,693		962,650		1,000,000		+105,306	+11.8%
産業機械	13,213		12,350		12,350		△863	△6.5%
繊維	59,210		—		—			
営業利益	30,963	3.2%	31,100	3.2%	31,100	3.1%	+136	+0.4%
ITインフラ流通	28,244	3.2%	30,200	3.1%	30,320	3.0%	+2,075	+7.3%
産業機械	1,032	7.8%	900	7.3%	780	6.3%	△252	△24.4%
繊維	1,580	2.7%	—		—			
経常利益	31,431	3.2%	31,500	3.2%	31,500	3.1%	+68	+0.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,283	0.4%	21,800	2.2%	21,800	2.2%	+17,516	+409.0%

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上高営業利益率



取扱高 ※旧基準売上高 **245,559**百万円 (前期比+**18.3%**)

売上高 **226,058**百万円 (前期比+**17.4%**)

営業利益 **4,358**百万円 (前期比△**4.0%**)

PC出荷台数 **68.9**万台 (前期比+**9.1%**)

サーバー出荷台数 **1.19**万台 (前期比△**1.1%**)

iKAZUCHI(雷)取扱高 **9,756**百万円 (前期比+**41.5%**)

事業概況

コーポレート向け市場

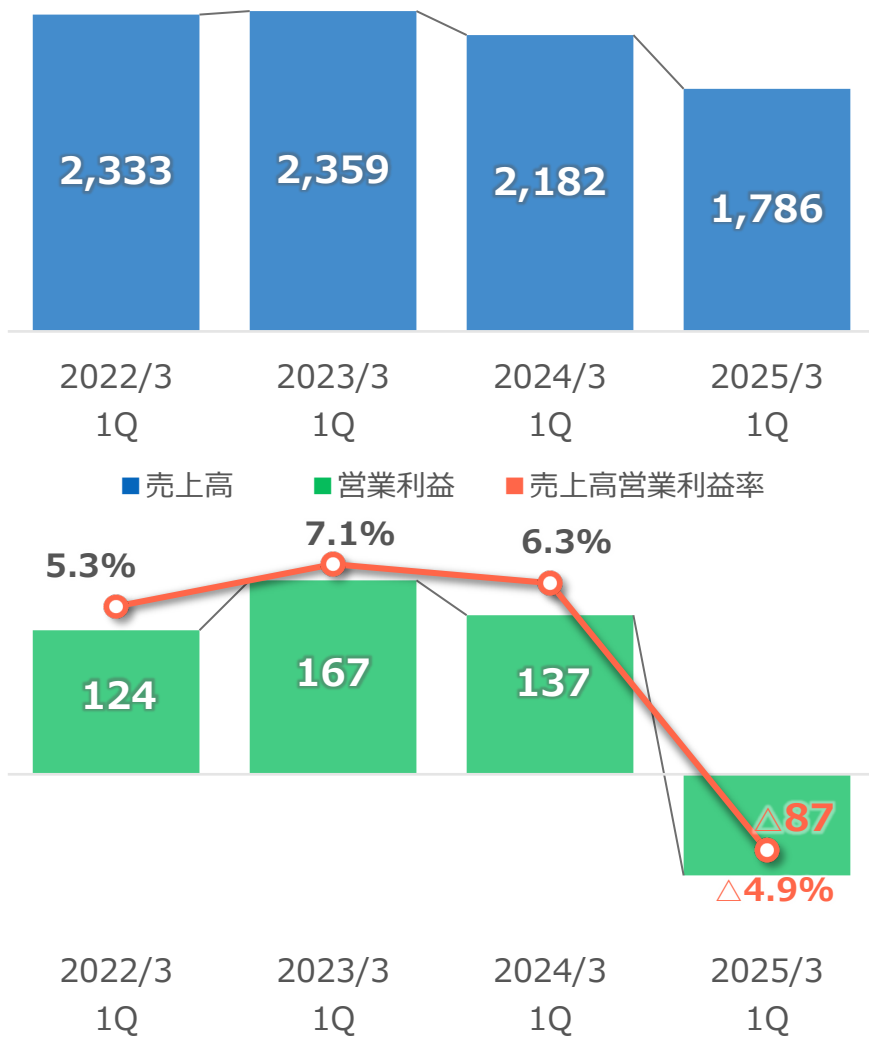
- 企業・官公庁向けは、安定的に需要を獲得し、主にPCやソフトウェア、ネットワーク、ストレージが好調に推移
- iKAZUCHI(雷)は、エンドユーザー社数・サービス契約件数ともに順調に伸長し、通期目標400億円に向けて好スタート
- GIGAスクール第2期への準備期間として提案・協業を強化
- 利益率の低下は一時的であり、2Q以降は回復見込み

コンシューマ向け市場

- PCやモニタを中心にEC向けは販売に苦戦したものの、量販店向けは好調に推移し前年を上回る

※「取扱高」の定義についてはP14に記載しています。

(百万円)



売上高

1,786百万円 (前期比△18.2%)

営業利益

△**87**百万円

事業概況

工作機械部門

- 日本工作機械工業会の4~6月受注総額は前期比1.3%増となる中、当社は米国市場および円安を背景とした中国市場での一定の需要が喚起され、受注高は前期比16.3%増加
- 第2四半期以降に本体出荷が集中するため減収減益

自動機械部門

- 社会的な人手不足を補うため設備投資による省人化の需要が高まり受注高は前期比24.7%増加
- 売上高は前期比で増加も、仕入原価の高騰を受けて利益面で苦戦

2025年3月期 1Q 連結貸借対照表 (決算短信P3-4)

(百万円)	2024/3	2024/6	増減		2024/3	2024/6	増減
流動資産	377,245	348,064	△29,180	流動負債	239,742	212,018	△27,724
現金及び預金	69,372	53,654	△15,718	支払手形及び買掛金	206,212	184,412	△21,799
受取手形及び売掛金	236,306	202,440	△33,866	短期借入金	8,400	8,200	△200
商品及び製品	33,413	48,979	+15,566	固定負債	23,380	23,121	△259
有形固定資産	10,238	10,092	△146	長期借入金	12,500	12,500	0
無形固定資産	3,691	3,526	△165	負債合計	263,123	235,139	△27,983
投資その他の資産	14,081	13,901	△179	純資産合計	142,133	140,445	△1,687
				自己株式	△5,133	△7,582	△2,449
資産合計	405,256	375,585	△29,671	負債純資産合計	405,256	375,585	△29,671

受取手形及び売掛金	236,306	→	202,440	△33,866	DISの売上債権の回収
支払手形及び買掛金	206,212	→	184,412	△21,799	DISの仕入債務の減少
借入金合計	20,900	→	20,700	△200	

2025年3月期 1Q累計 連結損益計算書 (決算短信P5)

(百万円)	2024/3 1Q		2025/3 1Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
売上高	209,337		227,844		+18,506	+8.8%
売上総利益	16,709	8.0%	14,759	6.5%	△1,950	△11.7%
販売費及び一般管理費	11,771	5.6%	10,484	4.6%	△1,286	△10.9%
営業利益	4,938	2.4%	4,274	1.9%	△664	△13.4%
経常利益	5,044	2.4%	4,528	2.0%	△516	△10.2%
特別利益	0		0		0	—
特別損失	25		1		△24	△95.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,442	1.6%	3,079	1.4%	△363	△10.6%

株主還元

2025年3月期 (予想)

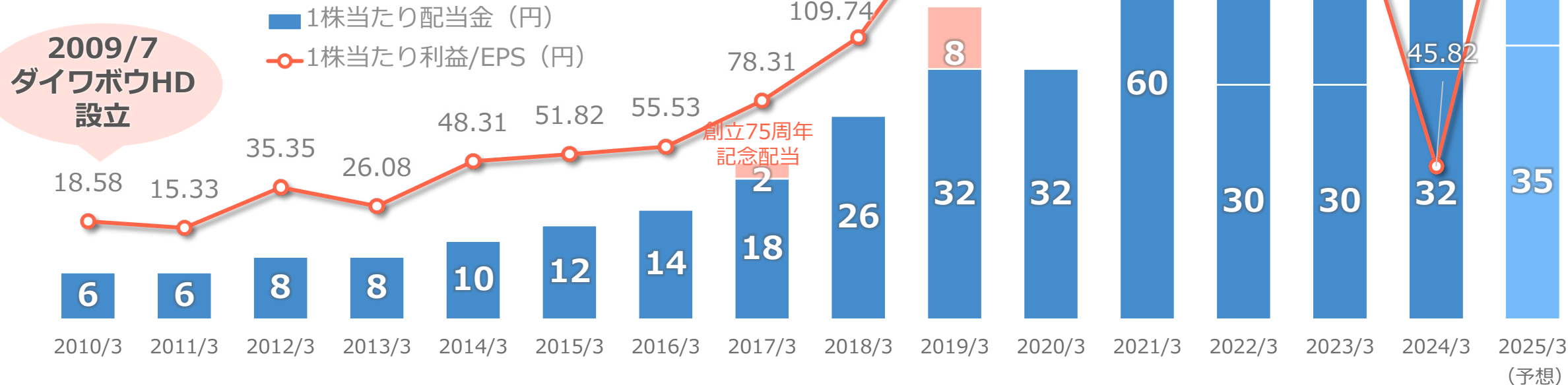
中間	期末	年間
35円	35円	70円
上限 100億円 (2024/5/10~2025/1/31予定)		
配当性向 30.0%		
総還元性向 75.9%		

1株配当

自己株式取得

配当性向

総還元性向



※株式併合 (2017/10/1) ・株式分割 (2021/4/1) を過年度に遡及して表示

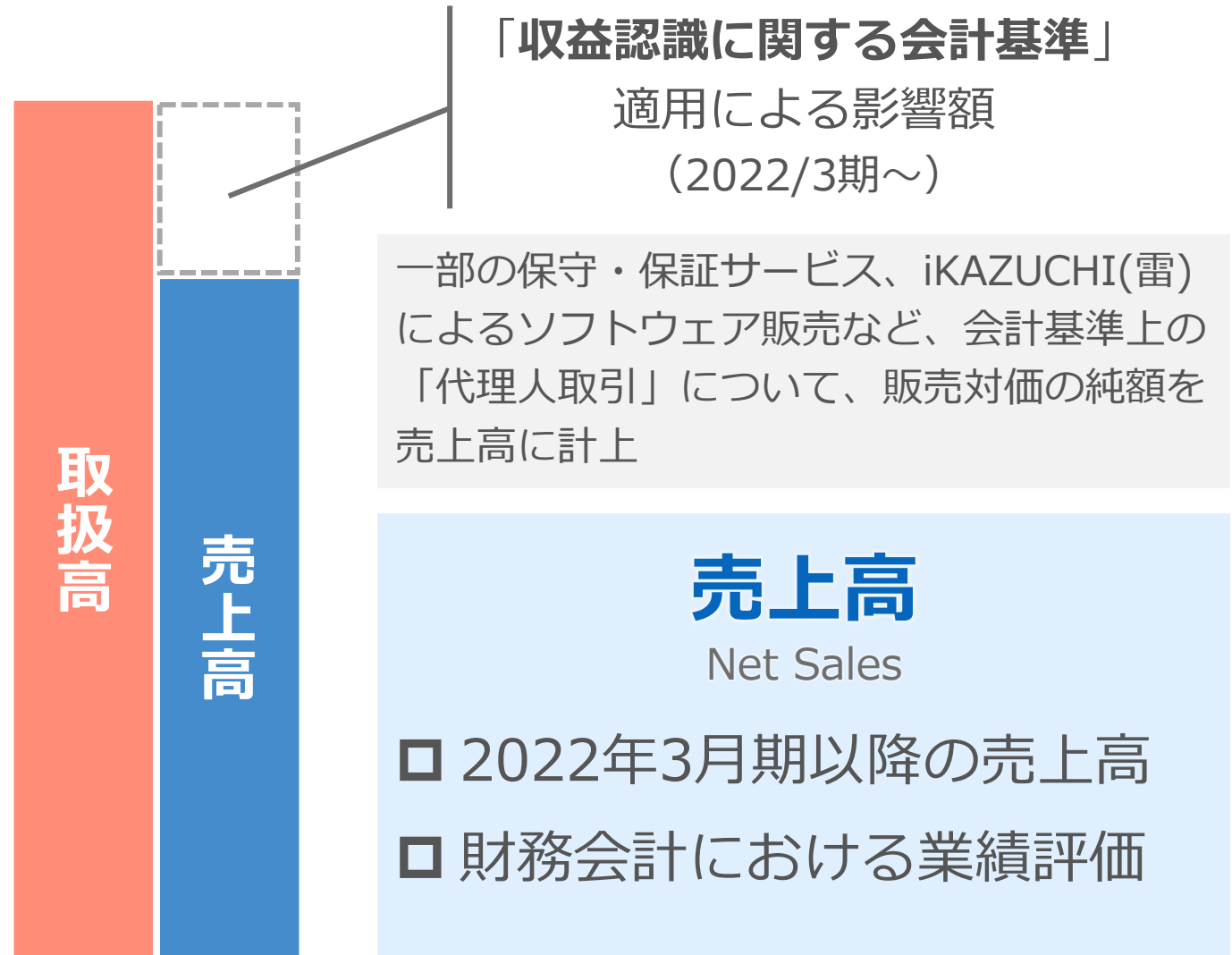
参考資料

- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

取扱高

Transaction Volume

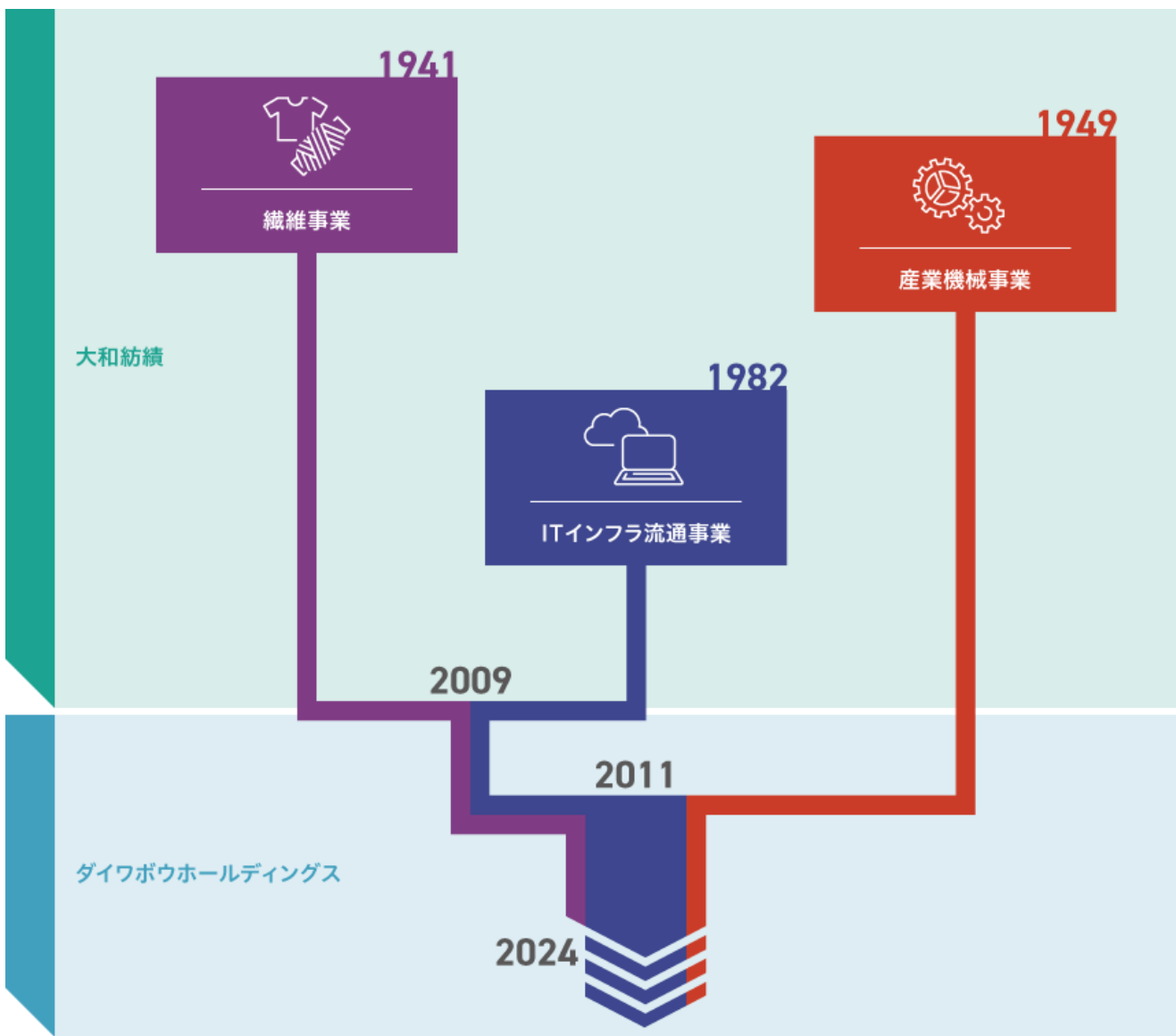
- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出
(= 会計基準変更前の売上高)
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価



本社所在地	〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト	
設立日	大和紡績として創立 1941年4月1日 ダイワボウホールディングス設立 2009年7月1日	
連結従業員数	2,867名（2024年3月末現在）	
資本金	216億9,674万4,900円	
株式	東証プライム市場 証券コード 3107 / 業種： 卸売業 <JPX日経インデックス400構成銘柄>	
事業内容	ITインフラ流通事業 [中核会社]  ダイワボウ情報システム株式会社	コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	産業機械事業 [中核会社]  株式会社 オーエム製作所	工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業

※大和紡績株式会社は2024年3月27日に独立いたしました。
(発行済株式の85%を株式会社アスパラントグループへ譲渡)

グループの沿革



- 1941. 4 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
- 1949. 5 大和紡績が東証1部上場
- 1949. 7 大和紡績が宍道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立
→その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
- 1971.11 オーエム製作所が東証1部上場
- 1982. 4 大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
- 2000. 9 ダイワボウ情報システムが東証1部上場
- 2009. 3 大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
- 2009. 7 大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更
繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
- 2011. 7 ダイワボウホールディングスがオーエム製作所と経営統合 ⇒**3事業体制**へ
- 2023.11 大和紡績の独立化（株式譲渡）を決定
- 2024. 3 株式譲渡により**大和紡績の独立**が実現

成長分野でのポジション & バリューアップ

- クラウドプラットフォーム市場でのシェア拡大
- SaaSモデルにおける事業領域の拡大



DX推進によるパートナーリレーションシップ

- 企業価値向上に向けたビジネスモデル変革 生産性向上の実現
- 先端技術を含む 海外ベンダー拡販による事業領域拡大

業界リーダー企業として コア領域の深化

- ITデバイス基盤における事業領域の拡大
- 高付加価値商材 ビジネス領域の成長
- 技術専門部隊による支援体制を整備し提案力強化

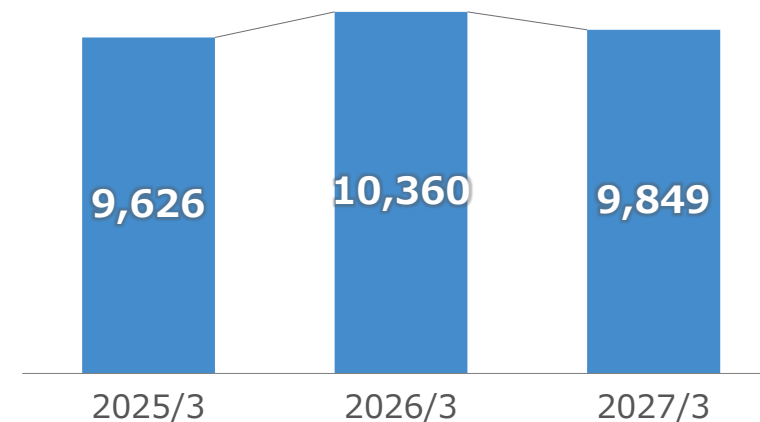
企業ブランディングと戦略的投資

- 社会認知度向上、業界発展への寄与および地域社会への貢献
- 事業強化に向けた投資 (システム、M&A、業務提携)
- 業界最適化に向けた投資 (物流機能、iKAZUCHI (雷))

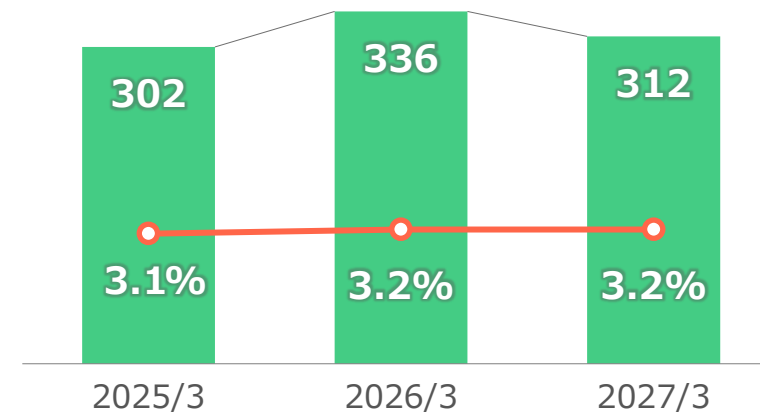
セグメント別計画

(2024年5月9日開示時点)

(億円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益率



ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み

1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

1983-1984 多店舗展開

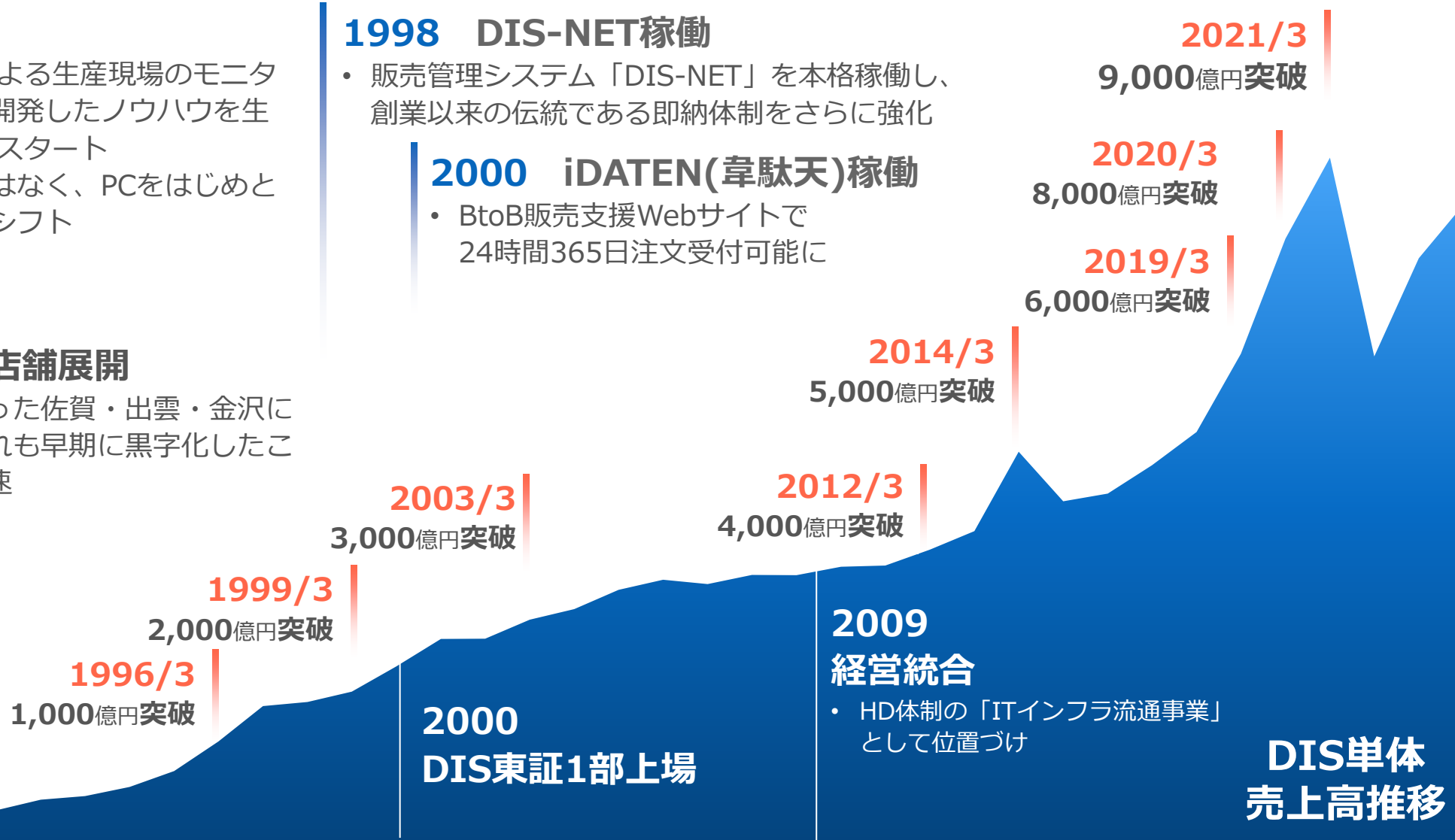
- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

1998 DIS-NET稼働

- 販売管理システム「DIS-NET」を本格稼働し、創業以来の伝統である即納体制をさらに強化

2000 iDATEN(韋駄天)稼働

- BtoB販売支援Webサイトで24時間365日注文受付可能に

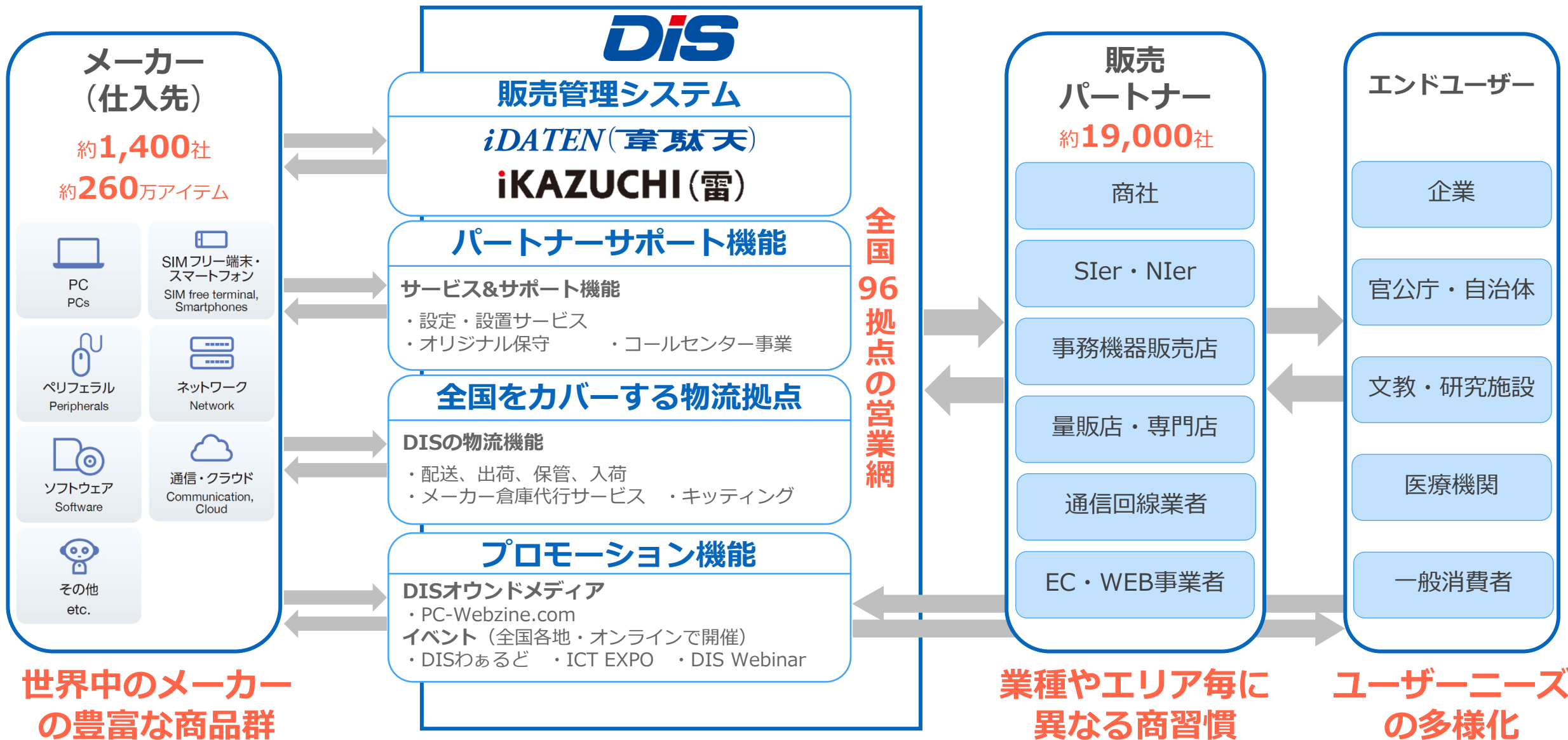


2009 経営統合

- HD体制の「ITインフラ流通事業」として位置づけ

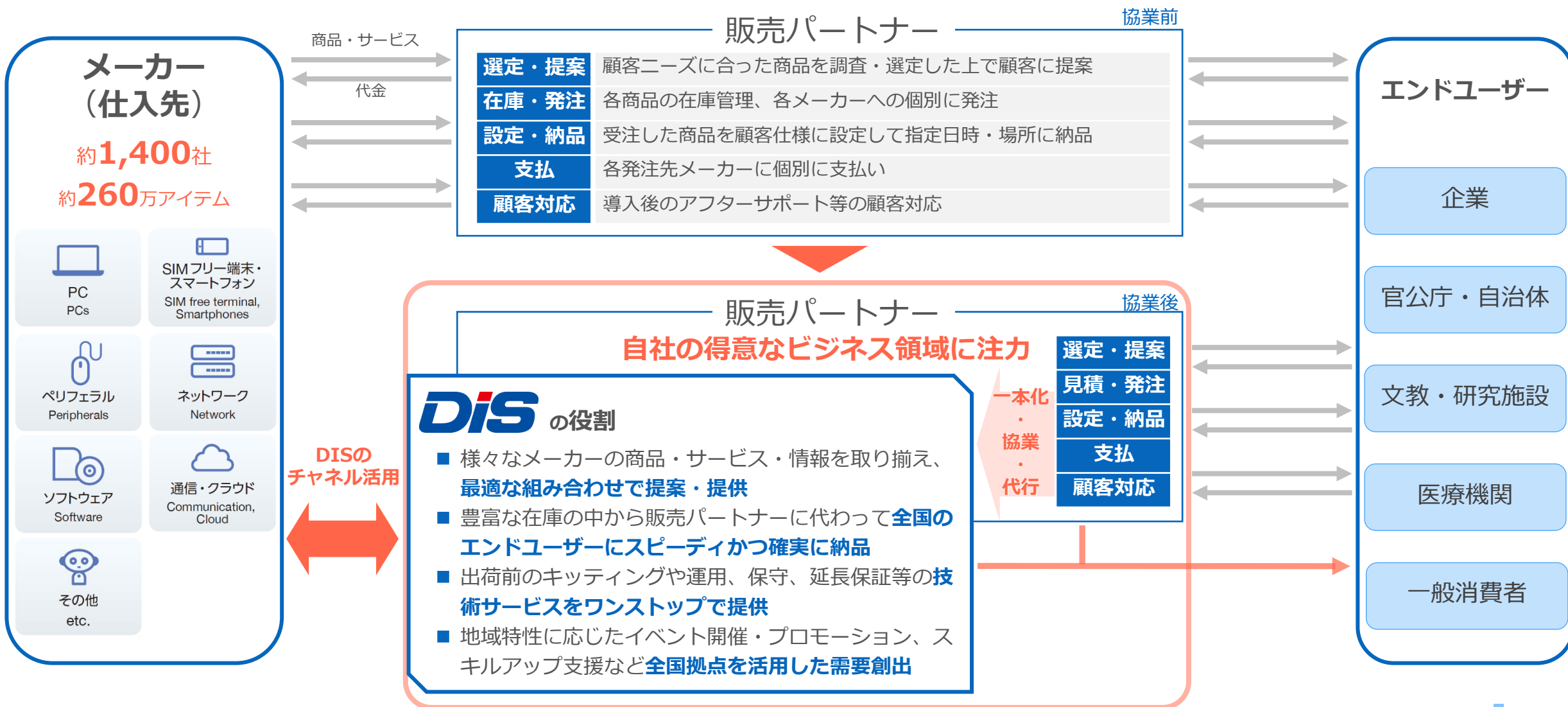
DIS単体
売上高推移

ITインフラ流通事業の事業構造



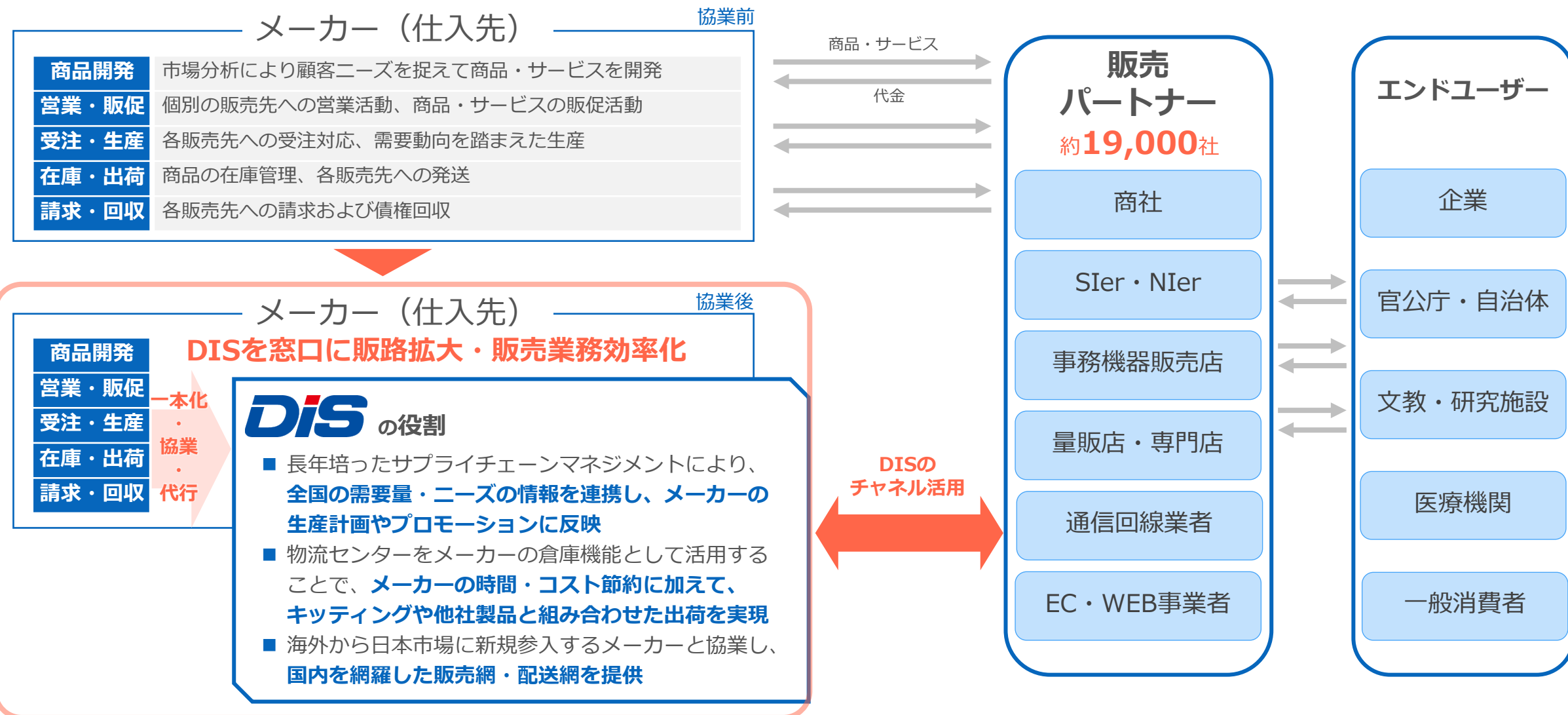
ディストリビューターの付加価値

販売パートナー × DIS



ディストリビューターの付加価値

メーカー（仕入先） × DIS



サブスクリプション管理ポータル

月額/年額/従量などの課金形態に対応

顧客単位でリアルタイム管理

複数サービスを一括管理

エンドユーザー向けの情報提供

全国の販売パートナーのサブスクビジネスを支援



iKAZUCHI(雷)掲載サービス

133ベンダー / 248サービス

(2024年6月現在)



コラボレーション

業務基盤・システム基盤

セキュリティ・管理

デザイン・クリエイティブ

ヒューマン・リソース

営業・マーケティング



ベンダー

DIS

販売パートナー

エンドユーザー

付加
価値

- ✓ 自動連携等によるサービス発行・請求管理の効率化
- ✓ 販売パートナー経由で多くの顧客対応を実現
- ✓ プロモーションの拡充

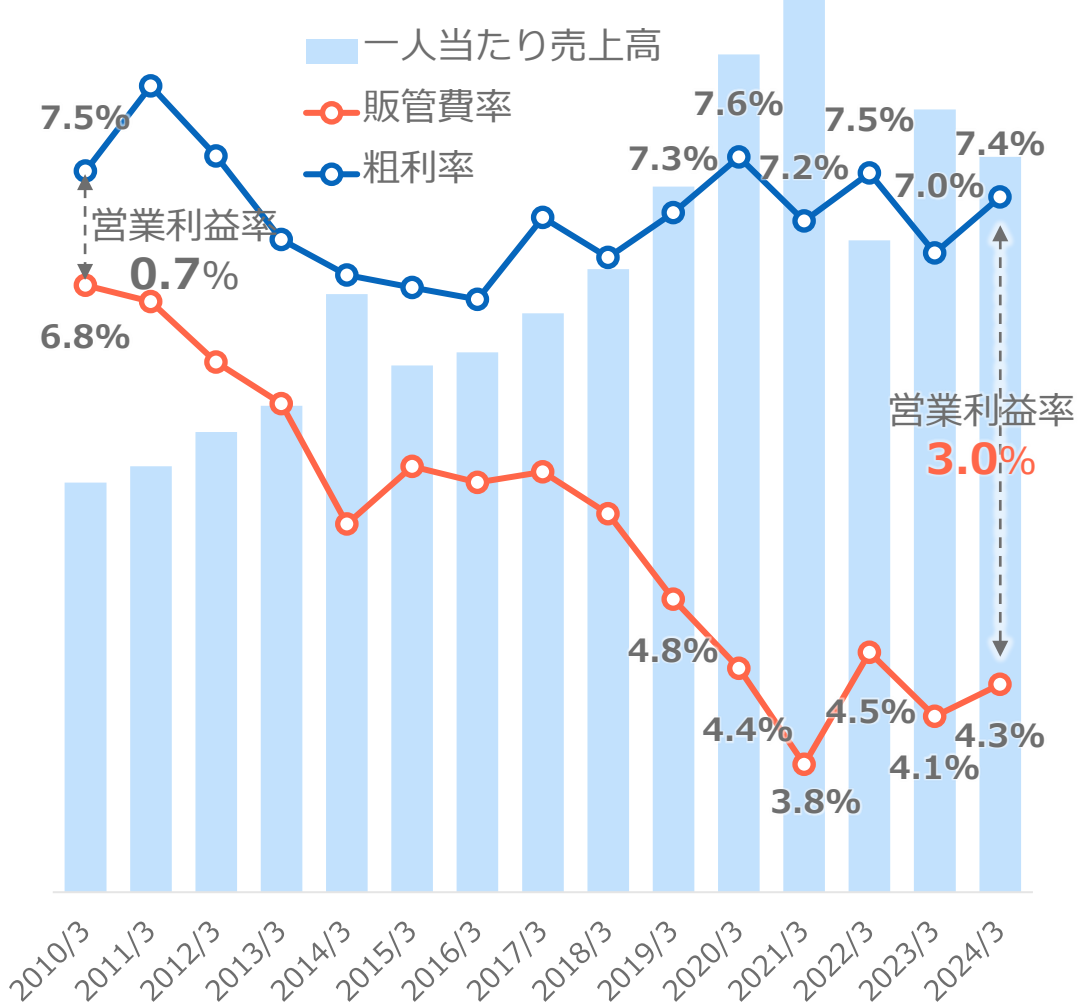
- ✓ 掲載サービスや提供機能の拡充による提案力・競争力の強化
- ✓ 継続的な契約関係の構築
- ✓ サブスク販売の効率化による複合提案の促進

- ✓ 複数ベンダーや多様な課金形態を一元管理
- ✓ リアルタイムの契約管理で多くの顧客対応を実現
- ✓ サブスク販売の効率化による販売拡大

- ✓ 複数サービスの契約状況の把握・ライセンス変更を一元的に実施
- ✓ 支払先・支払時期の集約
- ✓ サブスク利活用の効率化による業績貢献

iKAZUCHI(雷)で安定的な収益基盤を確立

ITインフラ流通事業 実績

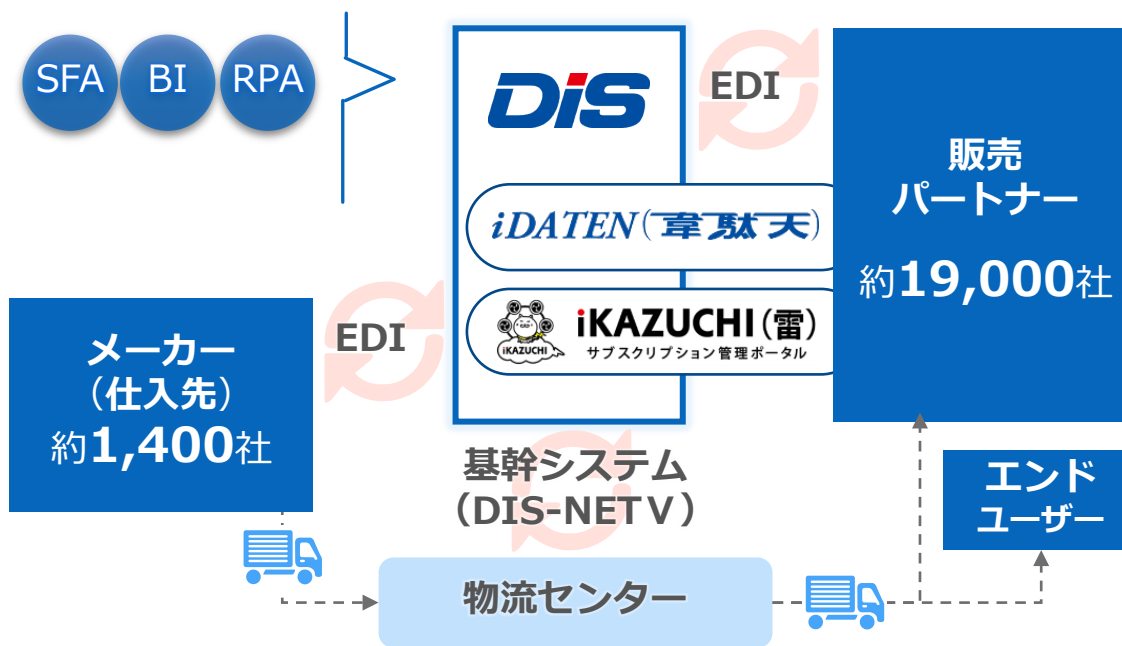


※連結調整を反映しておりませんのでセグメント実績とは異なります

1兆円を超える売上高を支えるシステム基盤の強化

3年間で以下の機能強化を実施

- 性能向上のため機器スペック増強、可用性改善
- 既存システムの移行、非互換プログラムの改修を含むマイグレーション
- 災害・障害・セキュリティ対策と運用管理改善・可用性向上
- 社内システム連携強化、自動化
- iDATEN（韋駄天）、iKAZUCHI（雷）、EDIなどの機能強化



関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働

倉庫面積：36,342㎡

関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働

倉庫面積：44,753㎡



東西メガセンターを中心に
効率化・生産性向上に注力

ロボットストレージシステム

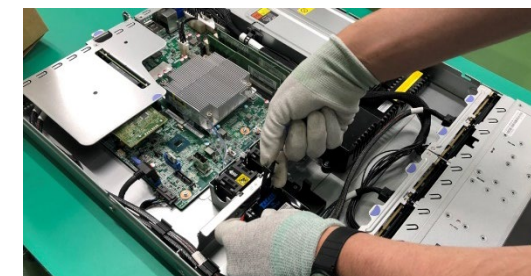
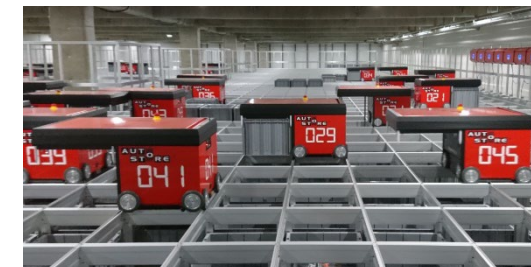
→作業効率・スペース最適化
【ロボット稼働台数】
関東中央：45台、関西：30台

キittingセンター併設

→入荷＞作業＞出荷に迅速対応
PC・タブレット：年間18.8万台
キitting実績（2024/3期）

トラック予約受付システム

→入出荷情報の共有・車両平準化



工作機械における潜在市場への事業拡大

- 省人化・無人化機能搭載の機台による生産効率向上の提案
- 長岡工場増築による戦略的かつ計画的な生産の実施
- 短納期での販売促進を展開し新規市場への拡大を図る
- 海外市場のさらなる拡大に向け成長が見込まれる市場への展開を模索



自動機械における包装機自動化需要の取り込み

- 自動供給装置標準化による品質向上とコストダウン
- 中国包装機メーカーとの協業による生産性向上
- 食品・製菓業界に向けて提案営業の強化

- 拡大が見込めるエネルギー・航空機業界を重点とした提案営業の強化

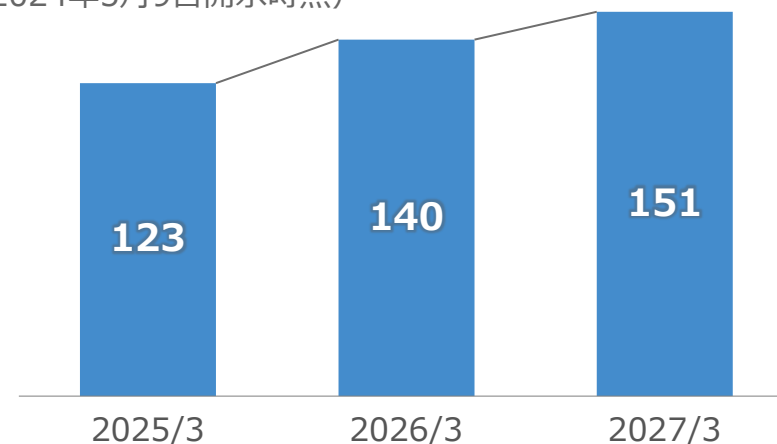
サービス強化による収益力向上

- 顧客満足度向上と安定的な収益拡大を図る
- 導入済み機台のオーバーホール提案を重点的に実施
- 協力企業の開拓や社員のスキルアップによる技術力向上

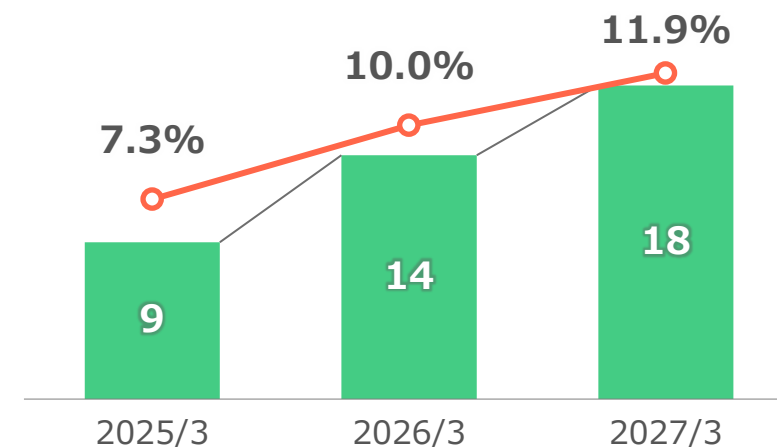
セグメント別計画

(2024年5月9日開示時点)

(億円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益率



立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,600**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

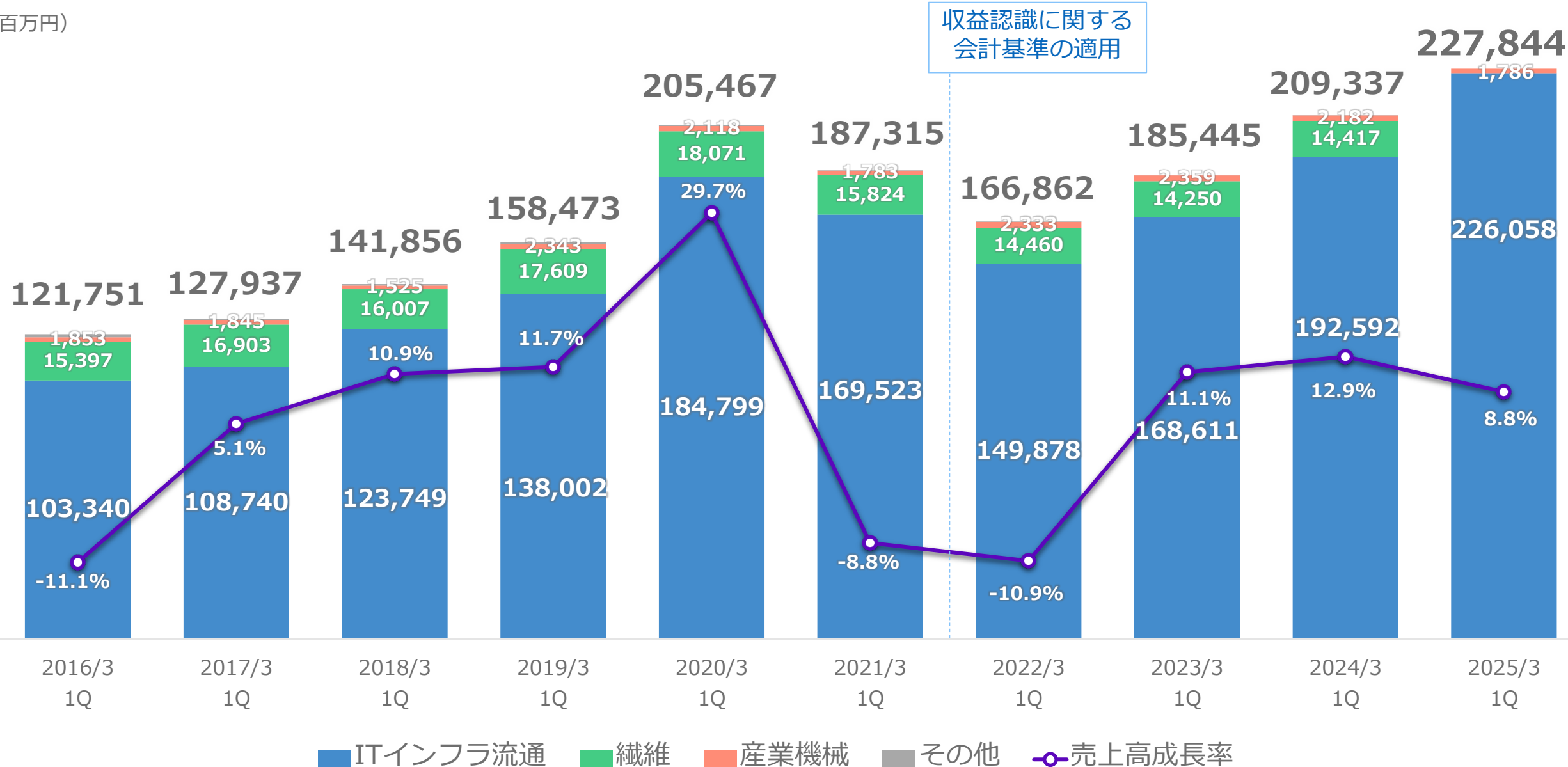
自動機械



- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

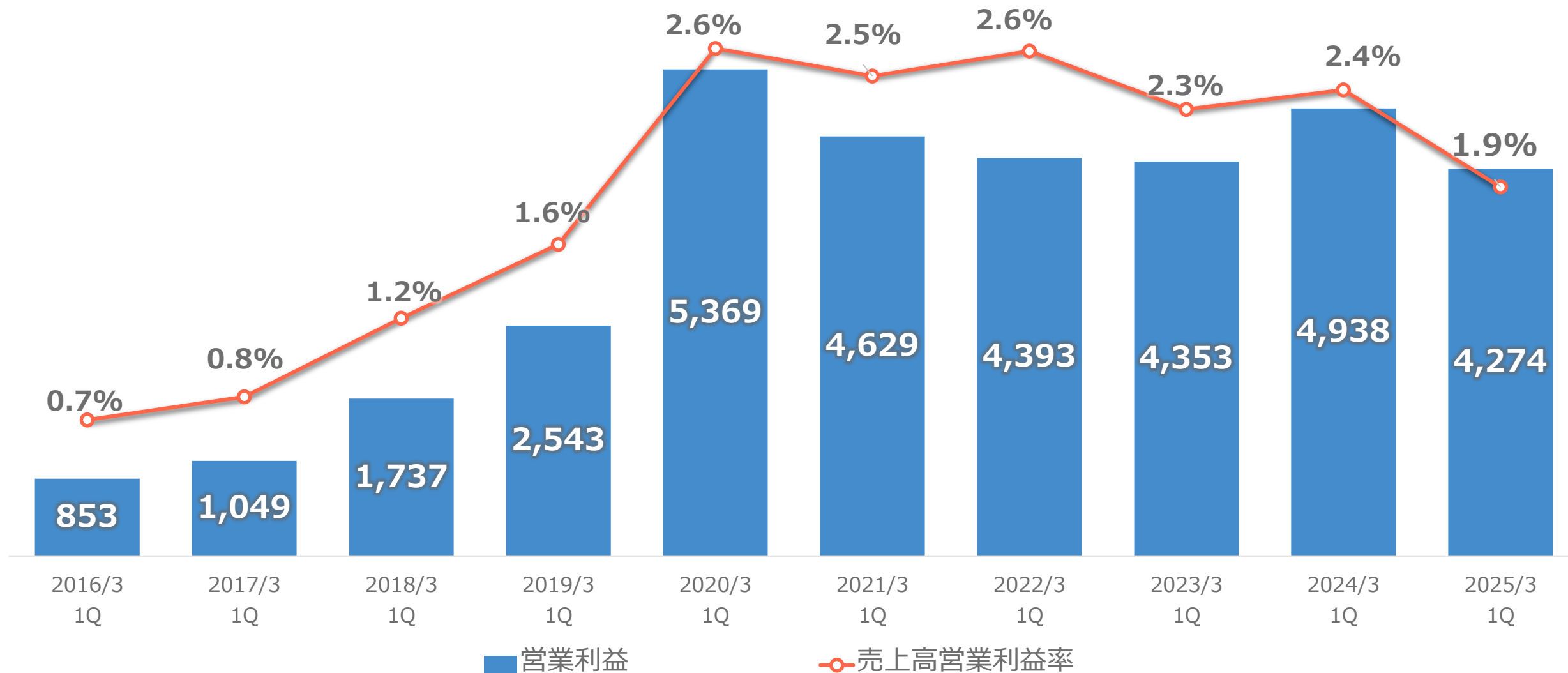
連結売上高（1Q累計期間）

(百万円)



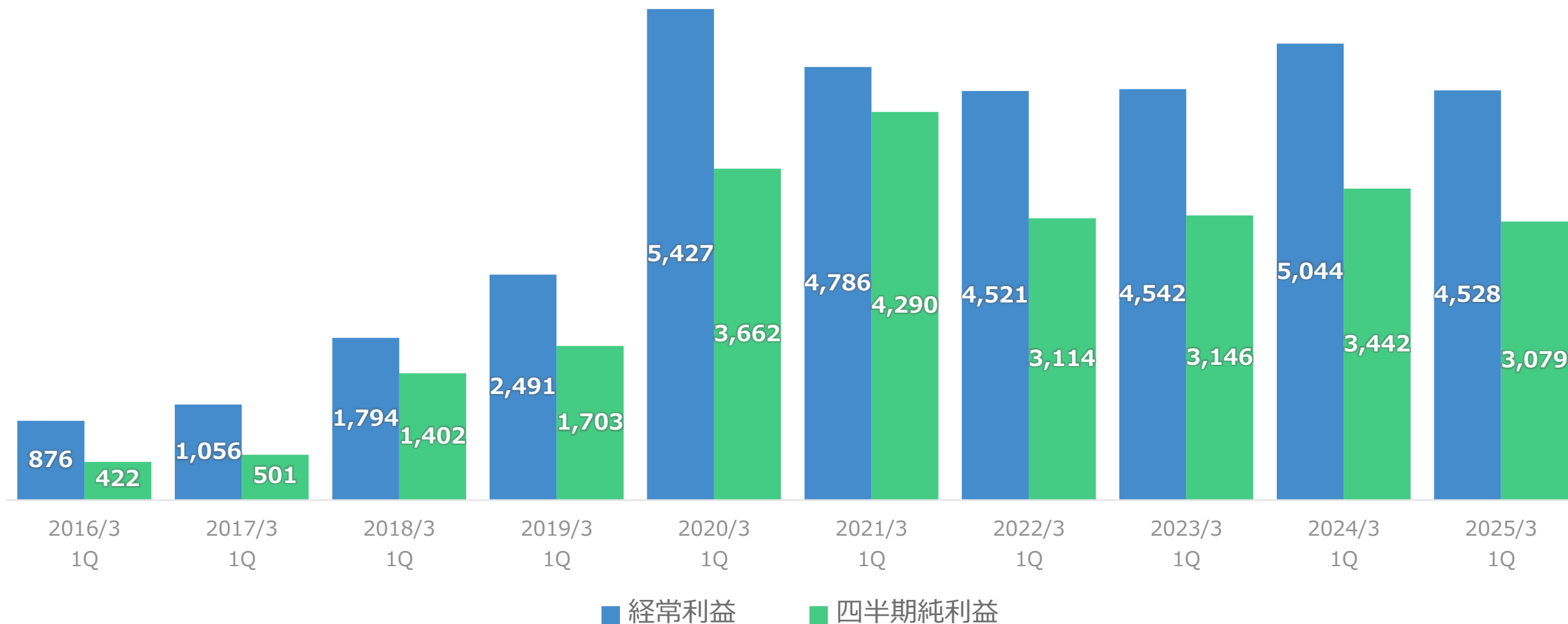
連結營業利益（1Q累計期間）

(百万円)



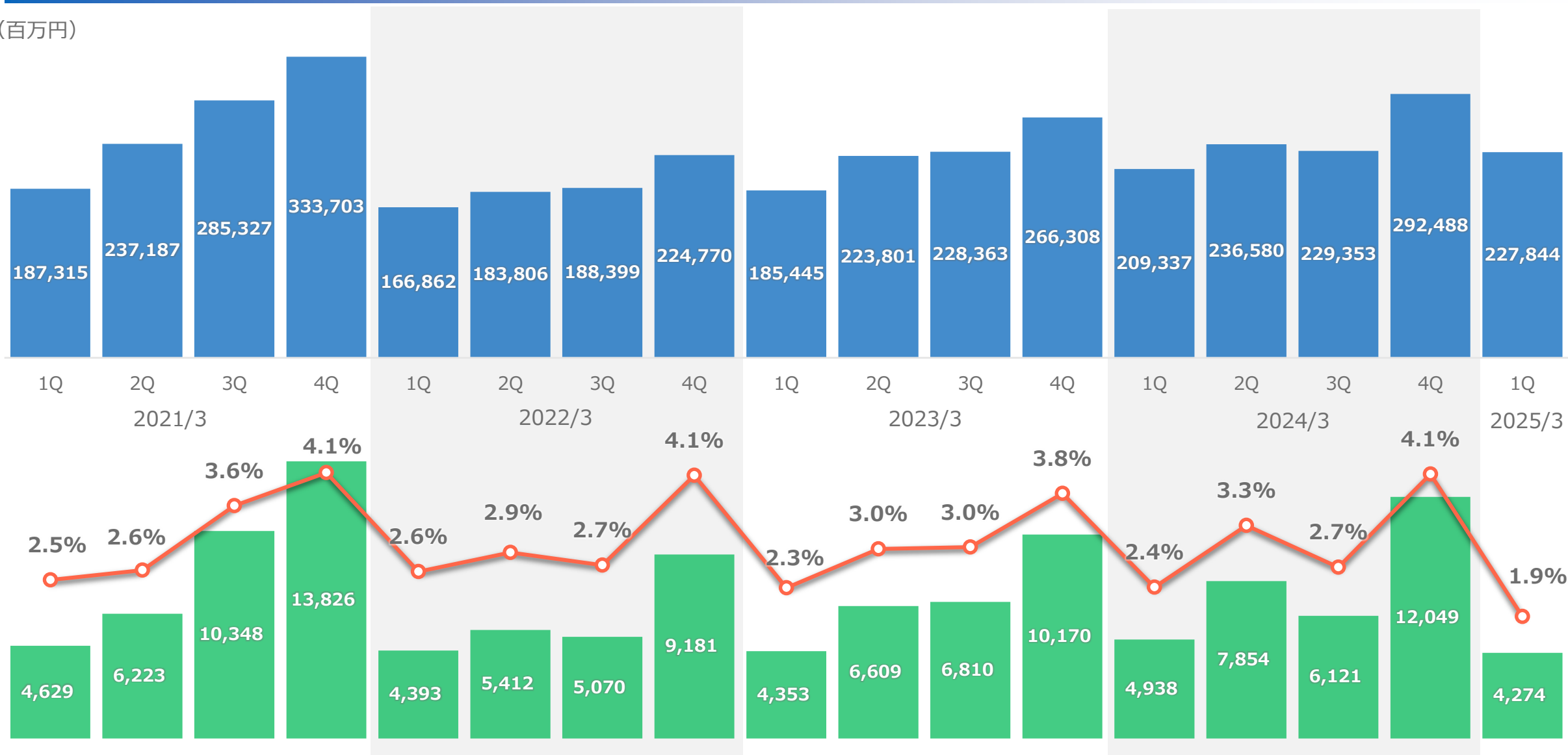
連結經常利益・連結四半期純利益（1Q累計期間）

(百万円)



四半期別業績推移

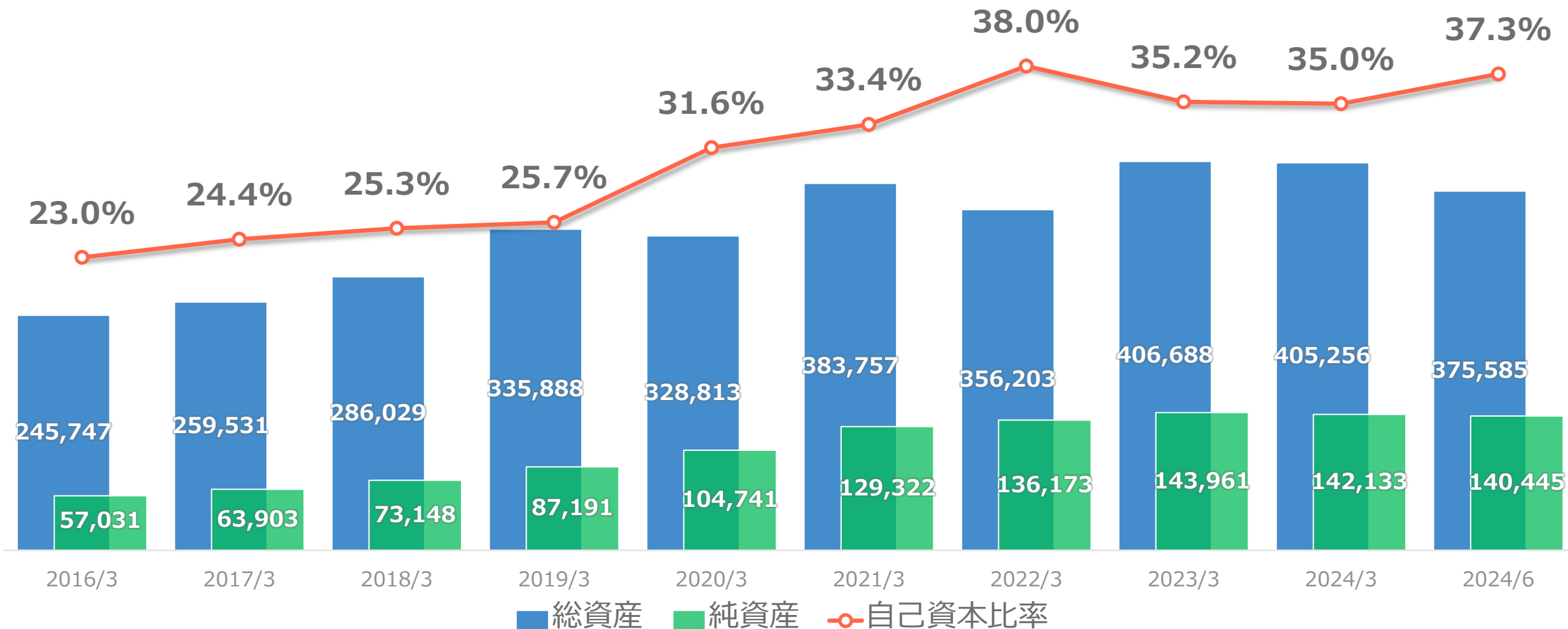
(百万円)



■ 連結売上高 ■ 連結営業利益 ■ 売上高営業利益率

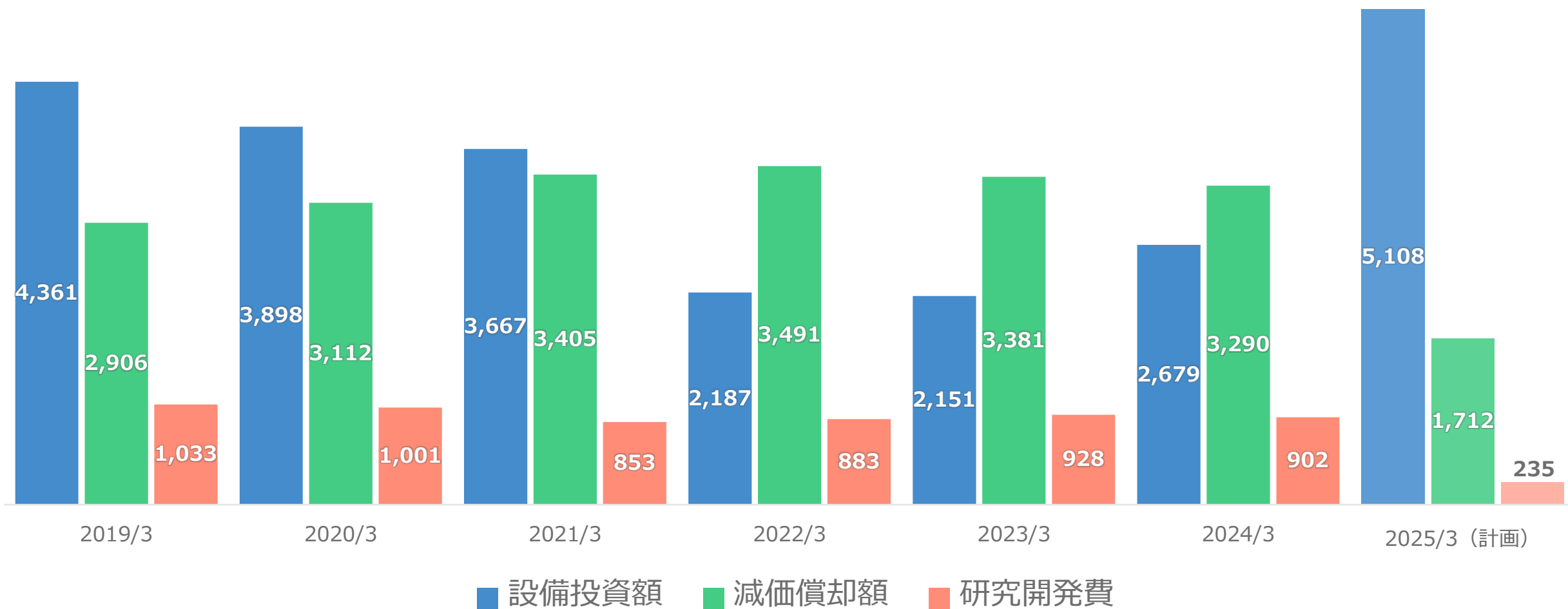
連結総資産・連結純資産・自己資本比率

(百万円)



設備投資額・減価償却額・研究開発費

(百万円)





ダイワボウホールディングス株式会社

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ニュース

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html>

ダイワボウグループ一覧

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html>

沿革

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html>

【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。